

市政の動き

12月定例会報告
市長総括説明から

11月30日、平成30年第5回市議会定例会が開会しました。

最初に、①第11回永楽館歌舞伎が連日大入りだったこと
②今後とも、文化芸術の力で子どもたちの感性やふるさとへの自信、誇りを育んでいくことについて報告した後、当面する市政の諸課題ならびに提出議案の主なものを説明しました。その概要をお知らせします。

■安全に安心して暮らせるまち
〇働く世代を対象とした歩キンググの状況

本市では、生活習慣病予防のため「職場対抗歩キンググ選手権」や「健康企業歩キンググ」を実施しています。「職場対抗歩キンググ選手権」には、毎年約40チームが参加し、「健康企業歩キンググ」には毎年数社、200人強の人が参加しています。市役所でも「課対抗歩キンググ選手権」を実

施しています。ウエルストーク豊岡を2年間継続して利用した場合と全く利用しない場合を比較すると、1人当たりの医療費抑制効果額は年間約13万円です。玄さん元気教室の参加者と非参加者の5年間の医療費の比較では、1人当たりの医療費抑制効果額は年間約12万円です。今後とも引き続き「歩いて暮らすまちづくり」を推進します。

〇高齢者福祉施策

3事業の状況(10月末現在)

「一人暮らし高齢者等安心・見守り活動奨励金」
一人暮らし高齢者等安心・見守り活動は、市内全区の85・2%に当たる306区に奨励金を活用していただいております。大多数の区で見守り活動が実施されています。

「玄さん元気教室奨励金」

玄さん元気教室は、奨励金の効果もあり、昨年度と比べて、新たに45区、コミュニティ2カ所で活動が開始されています。全体では166区、コミュニティ5カ所、有志団体等の10団体で実施中です。

「ふれあいいきいきサロン補助金」

ふれあいいきいきサロンは、234区、コミュニティ23カ所で開催されています。設置7年目以降も補助金を交付することとしたこともあり、補助金申請は、昨年度と比べて50区、コミュニティ23カ所増加しています。

■人と自然が共生するまち

〇ラムサール条約第13回

締約国会議への出席

10月23日、アラブ首長国連邦・ドバイで、ラムサール条約湿地「円山川下流域・周辺水田」のエリア拡張に係る登録認定証の交付を受けました。

これにより、登録湿地の総面積は、560haから1094haに広がりました。また、在アラブ首長国連邦日本国大使及び在ドバイ日本国総領事を訪問してコウノトリ野生復帰の取組みを紹介しました。

■持続可能な「力」を

高めるまち

〇外国人観光客の動向

第3四半期(7~9月)外国人延べ宿泊者数は、1万605人で前年同期比12・6%増となりました。全国の前年同期比9・6%の増と比べて3ポイント高い伸び率です。

地域別では、城崎地域が7989人と最も多く、次いで豊岡地域が1331人、日高地域が861人です。城崎地域は、7月の豪雨や9月の関西国際空港閉鎖の影響を受け、前年同期比285人、3・4%の減となりましたが、市全体では増となりました。

〇「コウノトリ育むお米」

海外販売戦略

9月は、オーストラリアとアメリカの食品商談会に出展し、10月は、香港で販売促進活動を行いました。また10月は、既に取扱いをしていたイタリアの高級リゾートホテルを訪問し継続使用のお願いをし、さらに、アブダビの日本レストランなどで販売促進活動を行いました。

コウノトリ育むお米の輸出量は、2016年度は1・5t、昨年度は7・81t、本年度は10月末時点で9・45tと着実に増加を続けています。今後とも、JAたじまと共に販路を積極的に開拓します。

〇スマート農業等の実施状況

コウノトリ育む農法を行っている4農家の協力のもと、

水位、水温及び地温をスマートフォンで確認できる水管理作業の省力化実験を行いました。その結果、自宅から一団の田まで距離がある場合、毎日行っていた水管理作業が3日に1回程度に減少しました。

一般栽培も6農家の協力のもと、苗箱に通常の約1・7倍の種をまく「高密度播種」と水田に直接種をまく「湛水直播」の実証実験を行いました。「高密度播種」は、1・5ha以上の耕作面積があれば資材費の節減となり、また育苗に係る作業時間を約40%、田植えに係る作業時間を約9%削減できました。「湛水直播」は資材費は約1%の微減で、作業時間は10アール当たりの育苗で1・6時間、同じく田植えで約8分、28%の削減効果がありました。しかし、この技術は収穫量の減少や田植機の変更に多くの費用が必要です。

これらの取組みは、豊岡の農業を守っていくために必要であり、引き続き、有効な技術について検討します。

〇地域経済循環創造事業
交付金の返還
2014年度と15年度に本

市が国から交付金を受けて事業者に助成した二つの事業について、昨年度、会計検査院から不適切な取扱いがあったとの指摘を受けました。関係省庁と協議を重ね、このたび返還すべき金額が確定しましたので、必要な補正予算を今議会に提出しています。なお、同額は事業者から市に返還していただきます。

○Weぶらざ自由通路の改修
JR江原駅の軌道をまたぐWeぶらざ自由通路は、雨漏りが随所に見られるため、屋根、天井等の改修を行います。その調査設計業務に係る債務負担行為の補正予算を今議会に提出しています。

なお、自由通路下部の躯体維持は、市道として保守、維持管理を行うべく、道路認定の可能性について検討します。
○但馬空港の利用状況
新型機ATRの就航日の5月7日から11月28日までの利用者数は2万5461人で、対前年同期比51.45人増となりました。一方、利用率は座席数が増えたことにより対前年同期比7.3ポイント減の68.8%でした。

○ジェンダーギャップの解消
現在、女性が働きたい職場への変革に関心を持つ民間の事業所と協働して、豊岡市ワークイノベーション戦略を策定しています。女性が働き続けたい事業所を増やすとともに、そのことを対外的にPRすることにより、若い女性のU・Iターンの増加を図ります。

市役所でも女性職員のスキル向上とキャリア形成を目的としたキャリアデザインアクションプランを策定しています。この検討の中で男性もキャリア形成プランが十分ではないという実態が浮かび上がってきたため、男女を問わない研修の実施に向けその必要な債務負担行為に係る補正予算を今議会に提出しています。

■未来を拓く人を育むまち
○幼稚園・認定こども園への空調設備整備
中学校の普通・特別支援・特別教室への空調設備整備は完了しました。現在、小学校の普通・特別支援教室への整備を行っています。

幼稚園・認定こども園は、保育室に空調設備がない8園で来年の夏からの稼働を目指

し、必要な補正予算を今議会に提出しています。

○小・中学校のバックネットの対策工事
大阪府北部地震に伴うブロック塀の倒壊を受け、直ちに学校園のブロック塀等の調査を行い、現在必要な対策工事を実施しています。今回新たに小学校6校と中学校2校の下部がコンクリートブロック造のバックネット等についても対策工事を行うこととし、必要な補正予算を今議会に提出しています。

○専門職大学
本市は、大学用地を取得し、大学側へ無償貸与するため、現在、土地所有者と交渉しています。しかし、土地所有者における建物解体工事が難航し、完了が11月末から7月ごろの見込みとなったため、土地取得に係る議決を9月議会でお願する予定です。市の旧職業訓練校の建物解体設計業務に必要な補正予算は今議会に提出しています。

県の開設準備の状況については、11月13日、施設整備に係る設計業務の契約が締結され、また、11月3日から12月

21日までの間に、教授、准教授等20人程度の募集がなされています。

■人生を楽しむ
お互いを支え合うまち
○出石文化会館の廃止
使用を停止している当会館は、今後さらに強風による屋根材の飛散等により、周辺に危険を及ぼす可能性もあります。速やかに解体を行う必要があると考え、出石文化会館の廃止等に関する条例の改正議案及び解体工事の設計監理業務に必要な債務負担行為に係る補正予算を今議会に提出しています。

○「但馬国分寺跡」土地買上げ事業に起因する損害賠償
当該事業地での土地買上げに伴い、職員の誤った説明により支払うことができなかった借家人補償金を、損害賠償金として支払う事件議案と必要な補正予算を今議会に提出しています。

○東京オリンピック・パラリンピックに係る取り組み
ドイツボートチームは、2020年7月の本市での事前合宿実施を決定し、11月14日に基本事項を定めた協定書

に調印しました(その他の国の合宿に伴う詳細は5ページ「市政ニュース」参照)。

7月に聖火リレーの出発地やルートを盛り込んだガイドラインが公表されました(兵庫県内は20年5月24・25日に実施)。県の実行委員会に対し、本市でのルート設定を希望する旨を伝えました。

○生涯学習サロン
設計業者の現地調査で、本年3月に取得し、改修することとしていた建物の一部で不同沈下が発見されました。設計内容に対策を検討する業務を追加します。その結果、建物を改修する場合には、対策に必要な設計費を予算に追加し、議会の議決の上で変更契約を締結します。地盤沈下対策に有効な手段が見つからず、建物を新築する場合には、現在委託している設計監理業務は分析・試算業務をもって終了し、取壊し及び新築のために必要な予算を計上し議会の議決をいただきます。

なお、改修する場合で10カ月程度、新築する場合で1年程度、スケジュールが遅れるものと見込まれます。